

# 夢みるこども 基金だより



www.standbyyou.com/yumemirukodomo

平成18年10月16日

2006 No.11

発行：夢みるこども基金事務局  
〒810-0042  
福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F  
☎092-751-0021 (代)  
FAX 092-751-0249  
✉yumemirukodomo@standbyyou.com

## 第12回 イベント 「いつか笑いがモノを言う～人生は笑顔から～」

多彩な内容に笑いと感動が会場を包む



こどもたちの絵本の読み聞かせ

第2部はNPO法人博多笑い塾の伊藤実喜医師らによるマジック、大道芸、物まね。まず、18人のこどもたちがステージ

午後0時半から始まった開会式では中村直・基金常任理事（福岡県歯科医師会副会長）が「人生において『笑い』は夢であり、希望であり、愛だと思えます。それがどんな形で表現されるのか楽しみだ」と挨拶した。第1部はアグネス・チャン基金理事が「世界のこどもたちに笑顔を」のテーマで貧困や戦乱で苦しむ世界のこどもたちの現状を報告し「みなさんは自分が置かれている環境に感謝することを忘れないで欲しい」と呼びかけた。

第3部は、直木賞作家の志茂田景樹さんも加わった「絵本の読み聞かせ」。江田君が作文とは別に書いた「でっかい笑いが地球を回す」の物語をこどもたちが57枚の絵に再現。これを一枚ずつスクリーンに映してナレーションを朗読した。志茂田さんもこどもたちの応援に加わった他、自作の「まんねんくじら」の読み聞かせもした。絵本の読み聞かせにはヴァイオリンとフラメンコギターの2人が加わり、会場は絵本の世界に包まれた。フィナーレは「こども宣言」。こどもたち18人がステージに上がり、「笑いは勇氣。笑いは希望。笑いは祈り。笑いは希望の種。笑いの花が世界に咲き続けることを祈って、人生は笑顔で！」のこども宣言を読み上げた。

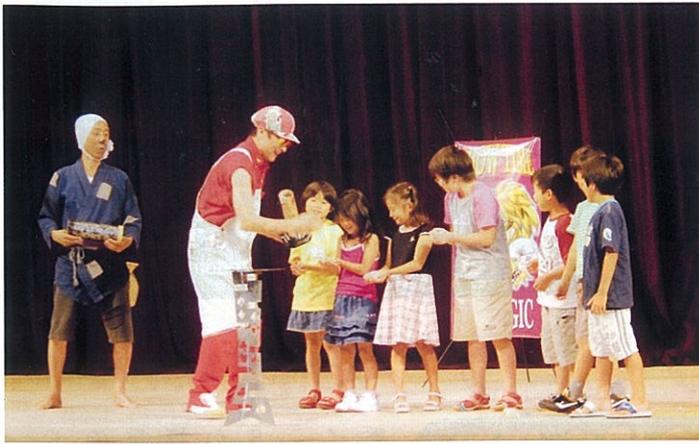
そして、会場の人たちも一緒になって夢みるこども基金のテーマソング「ドント・ストップ・マイドリーム」を合唱して閉会した。

江田君が作文で取り上げた姉の果瑠奈（かるな）さん(6)がその後病状が悪化してドイツで心臓移植手術を受けることになった。5000万円を目標に募金を始めたため、基金も10万円を寄付した。また、イベントの開会前にこどもたちが入場者に「かるちゃんを助ける会」が作成したチラシを配り、協力を呼び掛けた。

今年のイベントのキーワードは「笑い」。夢みるこども基金（事務局・福岡市）の第12回イベント「いつか笑いがモノを言う～人生は笑顔から～」が7月30日、福岡市中央区渡辺通りの電気ホールで開かれた。多彩なプログラムが好評で、約500人の観客でにぎわった。全国の小、中学生から寄せられた作文・イラスト2017点の中から作文の最優秀賞に選ばれた福岡市立西福岡中学校3

年江田健太郎君の、闘病中の姉に「笑い」が効果があることを訴えた「いつか笑いがモノを言う」を基本に3部立てのプログラムになった。参加したのは春の「こども会議」に出席した北海道から鹿児島までの25人のうち18人。前日、福岡市に入ったこどもたちはマジックショーや絵本読み聞かせなどのリハーサルに一生懸命に取り組み本番に備えた。

に上がり紹介された。このあと、前日から伊藤医師の指導で練習を重ねたマジックを披露した。こどもたちが新聞紙を大きなツリーや王冠に換えると、会場から大きな拍手が湧いた。

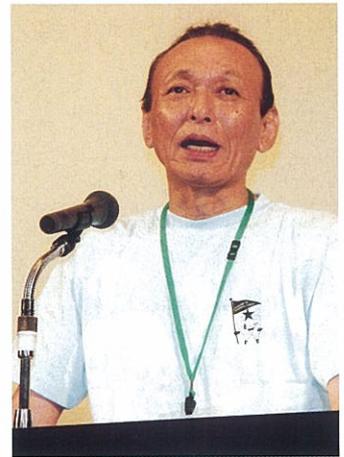


伊藤実喜医師とマジックを演じるこどもたち

# イベント 当日

## 開会式・第1部

第12回夢みるこどもキャンペーンは、こども基金の田中儀夫理事による開会宣言で幕を開けた。司会はF



開会の挨拶をする中村直常任理事

BS福岡放送の古賀ゆきひとキャスター。常任理事の中村直・福岡県歯科医師会副会長が「キャンペーンがさらに充実したものになるように歯科医師も支えて行く」と開会の挨拶をした。

寄付金の目録贈呈では、ネパール歯科医療協力会とバンクグラデシユ・夢みるこども基金学校」に各30万円、



アグネス・チャン理事の講演

福岡・ネパール児童教育振興会に10万円が贈られた。

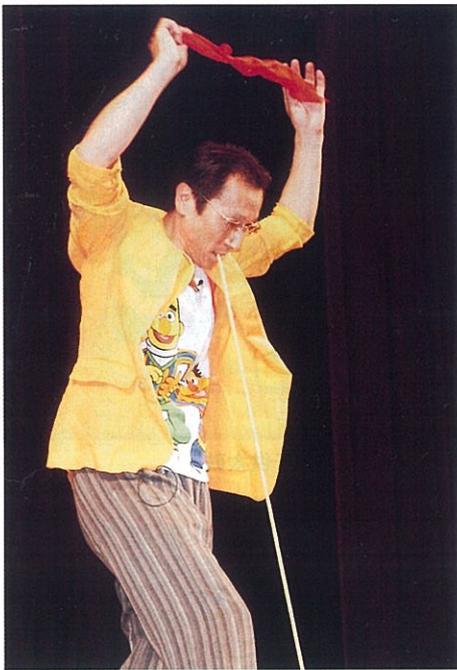
つづいて「キャンペーン12年のあゆみ」のVTR放映の後にアグネス・チャン理事がキャンペーンの仕組みなどを紹介、そして「世界のこどもたちに笑顔を」の講演があった。アグネス・チャン理事はイラクや他の貧困が重視されている国々のこどもたちの話を、こどもたちにわかりやすく話し、最後に「みんなが当たり前と思って生活していることが当たり前でないこどもたちが沢山いることを知って欲しい。両親から愛されて育っていること、学校に毎日元気よく行けること、温かいご飯が食べられること。それらに感謝することを忘れないで欲しい」と会場の人々に訴えかけた。毎回、ユニセフ協会大使でもあるアグネス理事により世界に目を向けて広い視野を持つことの大切さを学べることは、こども基金の貴重な宝であるといえる。

## 第2部

第2部はこどもたちの紹介から始まった。今回初めての試みで、一人一人の顔写真と出身校がスクリーンに大きく映し出される中、こどもたちは少し照れながら背筋をピンと張って名前が呼ばれた順に舞台上に並んだ。そして、今年の作文の部・最優秀賞に輝いた福岡・西福岡中学校3年の江田健太郎君が作文を朗読した。今回のイベントの基となった江田



スクリーンに顔写真を映してのこどもたちの紹介



マジックで会場を盛り上げた伊藤実喜医師

「君の作文「いつか笑いがモノを言う」は、自体験をもとに自らの視点で「笑い」が社会や医療にもたらす影響力の大きさを綴っており、朗読の最後に「さあ、地球人よ、笑え」と叫び

会場内を沸かせた。続いて行われた伊藤医師とこどもたちのマジックショーでは、こどもたちもマジックに変身し、新聞紙を使つてのマジックに会場は大いに盛り上がった。伊藤医師がこどもたちのマジック用に取り出したのは新聞紙。その新聞紙が、クリスマスツリー、王冠、南の島のスカートなど一瞬のうちにさまざまに変化する。「誰が一番高くツリーを掲げられるか」こどもたちは皆はりきつ

て我先にと作り上げたツリーを高く、また高く本当に天井に届くぐらい引き伸ばしていった。そこには年齢の違いを感じさせない無邪気な笑顔が競い合っていた。



こどもたちが新聞紙で作ったツリー

こどもたちは緊張で頬を赤らめながらも、笑顔で一糸懸命マジックする姿に会場からは温かい拍手が送られた。また、伊藤医師の本格的で、かつ大胆なマジックショーには会場の全員が固唾を飲んで見入っていた。伊藤医師が「生まれたばかりの赤ちゃんでさえ笑うことを知っている。それは赤ちゃんが親に笑ってもらうために笑う遣伝子を与えられて生まれてくるからだ」という話に会場全体も感動していた。



来場者に「かるちゃんを助ける会」のチラシを配るこどもたち



観客を喜ばせた志茂田景樹さん

### 第3部 絵本読み聞かせ

直木賞作家の志茂田景樹氏による  
自作童話「まんねんクジラ」のスク  
リーンを使つての読み聞かせが始ま  
った。声色を上手に使いながら時に



山内達哉さんのヴァイオリンと池川史洋さんのフラメンコギター



勇壮な野和子供太鼓

はおだやかに、また時には激しく、  
情景にあわせて語る志茂田さんにこ  
どもたちは絵本に吸い込まれるよう  
に見ていた。進行と同時にヴァイオ  
リンとフラメンコギターの演奏も加  
わり、そこはまるで映画館さながら  
のすばらしい映像と音響の立体空間  
が作り上げられていた。

志茂田氏は冒頭で「人間が笑う時  
は優しさや面白さを感じた時で、必  
ず好意と感動を兼ね備えていなか  
ればならない」と語り、改めて笑いの  
持つ意味の深さを感じた。

そのあと、先ほどの絵本に生演奏  
で音響効果を演出した山内達哉氏の  
ヴァイオリンと池川史洋氏のフラメ  
ンコギターによるミニコンサートが  
開かれた。山内氏はヴァイオリンを

弾きながら観客席に降り、こどもた  
ち一人一人に音色で話し掛けるよう  
に会場内を一周した。初めて間近に  
見るヴァイオリンにこどもたちは興  
奮し、近くの親たちも優しい笑顔が  
こぼれステージと客席が一体化した  
ひとときとなった。

そして、こどもたちの登場。緊張  
した面持ちの三人のこどもたちが舞  
台に並んだ。題は「で

つかい笑いが地球を  
回す」。原作は、今

回最優秀賞の江田健  
太郎君が平松暁氏の

監修のもと、何度も  
構成を練り直しなが

ら書き上げたものだ。  
絵はこども会議メン

バーが描き、読み聞  
かせは江田健太郎君、

小國由紀子さん、松  
元宏美さんの3人が

務めた。夏のイベン  
トまでの間に幾度と

なく集まり、練習を  
重ね、すべてこども

たちの手で作り上げ  
られた作品だ。また

そこに、ヴァイオリ  
ンとフラメンコギタ

ーも加わり、奏でら  
れる演奏にスクリー

ンの絵も命を吹き込  
まれたようにいきい

きと鮮やかに映し出され、読み聞か  
せのこどもたちの声も高まりを増す。  
会場内はすでに絵本の世界に引き込  
まれていた。そして終始和やかな雰  
囲気の中、こどもたちによる読み聞  
かせは大成功だった。  
永井寛通さん率いる野和太鼓と野  
和子供太鼓の勇壮なりズムが会場を  
盛り上げた



会場を埋めた観客

# 第12回 こども宣言



私たちの小さな夢が、たくさんの人々の協力で膨らみ、今日、全国のこどもたちが福岡市に集い、夢みるこどもキャンペーンのイベント「いつか笑いがモノを言う」人生は笑顔から」を開きました。

全国から集まった18人の「こども会議」メンバーは、ほとんどが初めての出会いでしたが、みんなでの絵本を作り上げていく共同作業の中で、意見を出し合い、時にはぶつかり合い、また認め合い、そして声を上げて笑い合い、気が付けば新たな友情の輪が作り上げられていました。笑いとて言葉のいらぬコミュニケーションです。国や人種、宗教の壁をも越えて、世界共通の友好の手段です。それは本来、人間がそうあ

るべき健全な優しさの象徴とも言えます。世の中には様々な苦しみ、悲しみを背負った人が数多くいます。しかし「笑うこと」により、心が浄化され、その苦しみや悲しみが少しだけ軽くなることがあります。このことは科学的に検証されつつあり、今後の医療にも大いに期待されています。

人生は楽しいことばかりではありません。この絵本の主人公のように時にはとても悲しい思いをすることもあるでしょう。また死にたくなるほど耐え難い苦しみに襲われること

もあるでしょう。でもそんな時こそ「笑う」が必要なのです。辛い時、悲しい時、鏡の前で笑ってみてください。自分の笑顔に会ってみてください。今すぐには無理でも必ずその日がくると信じてみてください。人間とは不思議なもので、どんな悲しみの淵に立ってもゆつくりと年月が経てばある日ふつと笑えるのです。そして、その笑顔周りの人に分けてあげてください。言葉はいりません。

きつと相手も微笑み返してくれるでしょう。たったそれだけのことで、互いに通じ合うことが出来、心の中で温かいひだまりの場所が生まれるのです。

今日、このこども会議のメンバーの中にも、大病を持つ家族に毎日笑いをもたらそうと懸命に優しさを与えながら活動をしている友がいます。私たちにはその友に、そしてその家族に「今以上の最高の心からの笑い」が訪れることを信じてやみません。そして今度はその友から私たちに大きな笑いを返してくれることを待ち



全員でこども宣言の発表

望んでいます。笑いは勇気。笑いは希望。笑いは祈り。笑いは幸福の種。皆さんは最近笑っていますか？声をあげて笑っていますか？周りの人に笑顔で接していますか？笑いをもたらす力は偉大です。自分のためにも、相手のためにも大いに笑いましょ。笑いの花が世界に咲き続けることを祈って。さあ、人生は笑顔から。

12月も協議

夢みるこども基金の第12回こども会議が4月2日、福岡市中央区天神のアクロス福岡で開かれた。

基金が、全国の小、中学生を対象に募集した「わたしのかなえたい夢」をテーマにした作文・絵の応募者2017人の中で上位入賞した25人と付き添いの父兄、基金関係者、一般市民約140人が参加した。

秋山治夫理事長代行(福岡県歯科医師会会長)が「12年目に入った夢みるこどもキャンペーンの作文・イラストの応募者は昨年より300点近く増えた。全国各地から寄せられる作品は年々増加しており、このキャンペーンが社会的にも定着してきたこ



夏のイベントについて話し合うこども会議

とを裏付けています」と挨拶した。

古市悟理事・事務局長(元スポーツ報知西部本社取締役編集部長)が作文について、平松暁実行委員(グラフィックデザイナー)が絵についてそれぞれ審査結果を説明した。特に古市事務局長は、父親の仕事の関係で、一時、沖縄の石垣市立平真小学校3年に在学し、優秀賞に輝いたバングラデシユのラキブ・ソードリ君の「バングラデシユに図書館を作るぞ」の作文を読み上げて、ソードリ君が学校の図書館で大量の本に出会い、感動した話を紹介した。

アグネス・チャン理事が11年間のキャンペーンの成果と思い入れについて「夢を持つことはすばらしいこと。このキャンペーンを通じて皆さんの夢を育んで下さい」と話した。

入賞者の表彰の後、作文の部で最優秀賞になった江田健太郎君(福岡・西福岡中学校)と、絵の最優秀賞の佐藤広志君(大阪・松原中学校)がそれぞれの作品を披露した。

その後、アグネス・チャン理事と陶山賢治氏(南日本放送報道制作局長)がコーディネーターになって会議が始まった。全員が作文や絵に込めたそれぞれの「夢」について話した。これを受けて今年のイベントは江田君の作文を基本に「笑い」をテーマにすることを決めた。具体的にどんなイベントにするかについての話し合いでも、こどもたちの意見を出し合う

姿は真剣だった。お笑い芸人を呼ぶという意見を始め、様々な意見が出たが「自分たちが笑いを提供してもらった側ではなく、今回は自分たちが来場してくれたお客さんと一緒に『笑いのある空間』を作り上げたい」というこどもたちの意思により、笑いをテーマにした絵本作り、こどもたちによるマジックショーが最有力候補となり、これらを中心に今回のイベントの枠組みが出来上がっていった。

◆応募総数2017点  
(作文1236点・絵781点)

◆入賞・佳作

「作文」

- ▼最優秀賞1 ▼優秀賞2
- ▼特選8 ▼入選15
- ▼佳作63

「絵」

- ▼最優秀賞1 ▼優秀賞2
- ▼特選6 ▼入選16
- ▼佳作13

前夜祭

7月29日、4月のこども会議で顔を合わせた18人のこどもたちがまた福岡の地に集まった。電気ビル本館にて、まず日程説明のあと明日の本番に向けてリハーサルを行った。

絵本グループ、マジックグループに分かれ、それぞれが自分の役割を把握し、懸命に練習に励んでいた。絵本グループには、グラフィック



前夜祭を楽しむこどもたち

デザイナーの平松暁さん、ヴァイオリン奏者の山内達哉さん、フラメンコギターの池川史洋さんも駆けつけてくれ、本番さながらの練習が何度も行われた。

マジックグループには、NPO法人博多笑い塾の伊藤実喜医師がこどもたちにマジックの手ほどきを伝授し、こどもたちも明日の舞台の成功のために真剣に取り組んでいた。こどもたち主体の舞台のため、この練習は5時間にも及んだが、この中でこどもたちは互いに協力し、教え合いながら次第に打ち解け合っていく様子が見られた。

そのあと、ホテルに移動し夕食を終えた後は、伊藤医師によるマジックショーやゲームで大いに盛り上がり、こどもたちの明日への緊張も少しほぐれたようだった。

## マスコミナ社が取材

今回のイベントはテレビ5社、新聞2社、歯科業界紙2社に取材・報道をして頂いた。

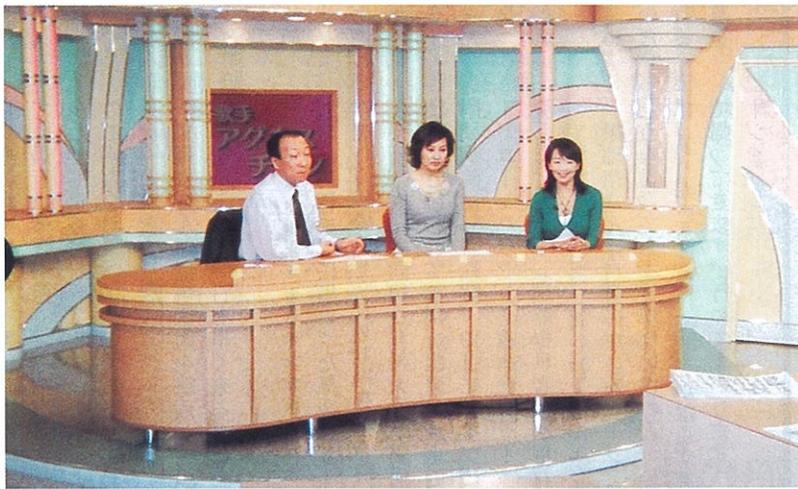
今年の会場の福岡市中央区渡辺通りの電気ホールは収容人数が1000人を超えるために、基金ではチラシ7万枚を作り、福岡市内の小、中

## アグネス理事が 基金をPR

アグネス・チャン理事が平成17年12月7日、NHK福岡放送局のテレビとラジオ番組に出演し、基金の活動をPRした。

アグネス理事は同年7月30、31の両日、熊本県阿蘇・高森町で開いた第11回イベント「キャンペーンのふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の友と交流」で一緒に過ごした玄界島の子どもたちが暮らしている福岡市中央区のかもめ広場の仮設住宅を訪問。5か月ぶりに「子どもたちと再会、一緒に歌を歌ったり、ゲームを楽しみながら」「私も家族を連れて島に行くから、島に帰るまで頑張つて」と励ました。

夕方からの「福岡一番星」のテレ



基金をPRするアグネス理事（右端）

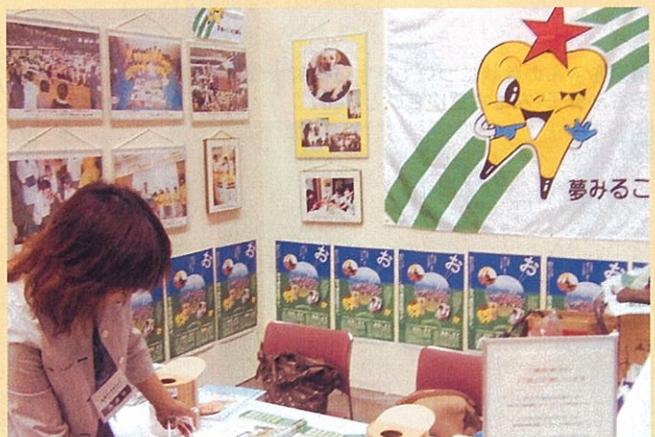
学校などに配布した他、新聞、テレビでも事前PRをした。  
プログラムも3部構成で、マジックや絵本の読み聞かせが子どもたちの人気を集めた。また、作文最優秀賞の江田健太郎君の姉・果瑠奈さんのドイツでの心臓移植手術の募金活動の支援もしたため、イベントと果瑠奈さんを組み合わせて報道したところが多かった。

## 九州デンタルショー に出展

平成18年5月27、28の両日、マリメッセ福岡で行われた「2006九州デンタルショー」に夢みるこども基金もブースを出展しPRした。

九州デンタルショーは毎年、福岡県歯科医師会と福岡県歯科用品商組合の主催で開かれており、今年は147社の出展業者が最新の医療機器・材料を展示した。

夢みるこども基金が出展するのは今年で11回目。会場の一角にコーナーを設け、これまでの活動を紹介するパネルやポスターなどを展示した。



夢みるこども基金のブース

## 東雲堂も

## イベントに協力

今年のイベントでは、今年創業100周年を迎えたお菓子の東雲堂（本社・福岡市博多区吉塚）より、FAXによる事前の入場申し込みをした先着300人の子どもたちに20煎餅が贈られた。

引換え葉書を手に来場した子どもたちは、嬉しそうに煎餅を受け取っていた。



ビに出演して、阿蘇でのイベントの思い出などを話し、「子どもたちが阿蘇で会った時より多少元気になっていた」と嬉しそうだった。  
基金のこれまでの活動などについて触れ「子どもたちの夢を育てるすばらしいキャンペーンです。私も基金の設立時から、春のこども会議と夏のイベントに参加していつも感動します」と語った。最後に新曲も披露した。

# よみがえれ 果瑠奈さんの笑顔

## 江田君の姉がドイツで心臓移植手術

### 子どもたちも応援

今回、作文の部・最優秀賞を受賞した江田健太郎君の姉・果瑠奈さん(16歳)は先天性の心臓病で、幼い頃から何度も手術を繰り返してきたが、心筋の弱化により2年前に医師から心臓移植の道を宣告された。果瑠奈さんは国内で移植手術を受けて元氣になりたいと母の博子さん共々頑張ってきたが体力の低下に伴う症状の悪化により、この5月、海外での心臓移植を決定した。手術費、渡航費、滞在治療費などを含めて5千万円という多額な費用が必要となり果瑠奈さんが住む団地の住民らが「かるちゃんを助ける会」を結成、福岡市内などの街頭で募金活動を始めた。

子ども基金の仲間として助けを必要としているお友達に何か自分たちができないことはないだろうか、と開会式前に子どもたちは来場されるお客さんに「助ける会」のチラシを配り、募金を呼び掛けた。子どもたちの大きな声に足を止めて応援する来場者も多数見られた。



移植手術を待っている▶ 果瑠奈さん

元氣になりたい  
生きていたい  
死にたくない  
明日、誰かに会いたい  
明日、わらいたい

そばででき  
元氣になったら どんなことが出来るだろうと 考えこあくわくしけり  
動かない身体をくせしく 思っています

ども いつか  
走りたい  
遠くまで出かけたい  
会いたい人に 会いにゆきたい  
泳ぎたい  
いろいろなものを見にゆきたい

どれかひとつには しめおせせんか  
楽しみだけは いいて  
そのために がんばってゆきたいと思っています

ありがとう みんなの 力を かりたくさい

平成18年初夏  
ころた かまな

▲果瑠奈さんの思い(「助ける会」のチラシより)

子ども会議では思い切った思いつくコトバを出してみた。しかし、アグネスさんも「何言ってるんだろ」という自分に対して「でも、わかる気がする」と言ってくれた。なんだ、伝わったじゃん。ふっと力が抜けて自分の言葉に自身が持てるようになった。

「ここなら、自分の思いを受け止めてくれる」嬉しかった。自分が言いたいこと、伝えたいことをうまく拾い上げてそれにしつかり答えてくれた。「笑いの力」を真剣に考えてくれたみんなのおかげで、こんな良い夏が過ごせたと確信しています。絵本という表現。マジックという

## 夏のイベントは「開放地」

江田 健太郎

中学生として最後の夏だった。7月30日、この日のために全てを尽くしたひと夏だったかもしれないと思ひ出しています。

事の始まりは冬休みに締切りギリギリで書いた作文が入賞し、その夢を語るという「子ども会議」からでした。しゃべっていると自分ではわかるんだけど向こうからはあまりわかりやすいとは言えないししゃべり方の僕は、人前でしゃべるという事にためらいを持っていた。しかし、せっかく最優秀賞をとったのに何もしゃべらないという事は「もったいない」そのものだ。この時、伝わるか伝わらないかじゃなくて、なんとなくわかって貰えれば良いと決意し、子ども会議では思い切った思いつくコトバを出してみた。しかし、アグネスさんも「何言ってるんだろ」という自分に対して「でも、わかる気がする」と言ってくれた。なんだ、伝わったじゃん。ふっと力が抜けて自分の言葉に自身が持てるようになった。

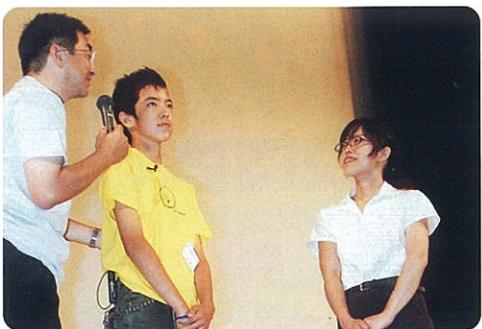
「ここなら、自分の思いを受け止めてくれる」嬉しかった。自分が言いたいこと、伝えたいことをうまく拾い上げてそれにしつかり答えてくれた。「笑いの力」を真剣に考えてくれたみんなのおかげで、こんな良い夏が過ごせたと確信しています。絵本という表現。マジックという

表現。音楽という表現。太鼓という表現。すべてが重なっていたあの空間は自分の「開放地」となった。人を泣かせるよりも、笑わせるほうがもっと難しい。でも、笑っているという事は悲しみより大きな感情なんだ。その感情を参加してくれた子どもたちはわかってくれただろうか。わからなくても、じきにわかる日が来るでしょう。

そして今回のイベントでご協力いただいた姉の募金活動も5000万円に到達し、9月19日にはドイツに出発しました。飛行機に乗る直前まで姉は笑顔でした。ここにまた、笑いの力でここまで耐えられるという事を知りました。これも夢みることも基金。他、出演者の皆さん。会場にいた方々のおかげです。またどこかで、元氣になった姉の姿を皆さんに見てもらえる日を楽しんでいます。最後に本当にご協力ありがとうございました。

LOVE and SMILE!!

▼果瑠奈ちゃんの症状について話す江田健太郎君、博子さん母子(左は古賀ゆきひとさん)



# 「わたしのかなえたい夢」 最優秀作文

いつか笑いがモノをいう

福岡県 西福岡中学校2年

江田 健太郎

「近頃、いつ笑いましたか？」

もし、この質問を受けたとしたらあなたはどうか答えるだろうか。そして僕がこの質問を受けたのが今の夢のきっかけと言えるだろう。

この質問を受けたころ、僕は中学へと上がってこれからどんな中学生生活になるかを思い悩んでいる時、姉が先天性の心臓病で入院することになりお見舞いに行くことになった。実際、入院しているのだからなるべく静かにしなくてはと考え、ドアノブに手をかけると、中から笑い声がするではないか。そう、姉はお笑いのテレビに声を出して笑っているのだ。

しかし、姉はこれから驚異的な回復を見せて今では自宅で過ごしているのだ。そしてこの僕もただのお笑いではあるが、「笑う」ということで悩みも晴れて

気楽になれるのだ。

では「笑う」ことで、世界はいきいき明るくさせられるのでは。人間が誰でもどこの国のどの人種でさえも、喜びを表す時は大爆笑をするものだし、宗教の壁を越えて人は自由に「笑う」ことができるのだ。

また、姉のように「笑い」が医療につながることであってある。パッチアダムスといつて患者に笑いを届ける医者も、笑うことで心が和み、病に打ち勝つ心へとなっていく。欲しいという想いの笑いだそうだが、それから僕は思った。「笑い」とはコミュニケーションであり、笑う方も笑わせる方もとてもいい思いができる最高の事である。所詮、電話・メールなどのつながりよりもその空間の空気を和ませる世界へとこの地球は進むべきだと思うのだ。

さあ地球人よ、笑え。笑うのだ。この星に地響きを起こせ。核勢力を超す大爆笑を。そして人類が皆地球人として共に笑いあえる世界にこの僕がしてやろうじゃないか。

## 第12回 イラストの部・最優秀賞

「立体画家になりたい」

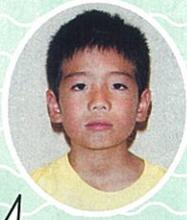
立体絵を描く画家になりたいです。

大坂附 松原小学校5年 佐藤 広志



いつもみんなの虫歯をなおしてくれて、ありがとうございます

福岡・大池小学校3年  
山口 拓郎



歯医者さんのおかげで楽しい時間がすごせました。夏休みの一番の思い出です。

福岡・今川小学校4年  
穴見 貴大



歯医者さんのおかげで友達がいえました。



福岡・高取小学校4年  
土井 直人



福岡・片江小学校2年  
佐藤 桃香

色々なことをして楽しかったです。歯医者さんのおかげです。



福岡・大池小学校4年  
龍田 瞳

マジックが楽しかったです。ありがとうございます

みんなと泊まつたりできて楽しかったです。私は歯の矯正をして口を開けて笑えるようになったのも歯医者さんのおかげです。

福岡・天神山小学校6年  
松元 宏美



このイベントを開いて下さってありがとうございます。たくさんの友達ができました。また、今きれいな歯でいれるのは歯医者さんのおかげです。

みんなと楽しく交流できたのは、歯医者さんのおかげです。中学生の友達が出来たので嬉しいです。楽しい思い出をありがとうございました。



福岡・筑紫丘小学校5年  
小國 由紀子

イベントのおかげでいい思い出ができて、いい友達ができました。



福岡・後藤寺小学校6年  
所 ちなつ



福岡・後藤寺小学校6年  
所 ふたば

このイベントが出来たのも歯医者さんのおかげです。たくさんの友達が出来て良かったです。

# 歯医者さん ありがとう

歯医者さんのおかげでこのイベントを成功させることができました。ありがとうございました。



福岡  
久留米聾学校中学部2年  
井上 彩香

福岡・育徳館中学校1年  
世取 綾香



とてもいい経験をさせていただきました。今年の夏はひと味もふた味も違う夏になりました。歯医者の方々に感謝しています。

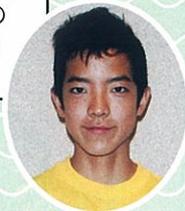


東京大学教育学部附属  
中等教育学校3年  
岡部 憲和

色々な体験ができましたし、友達も増えて良かったです。また応募したいと思います。

治療してくれたおかげで痛い歯がなくなりました。いつもありがとうございます。

福岡・西福岡中学校3年  
江田 健太郎



このイベントが出来たのも歯医者さんのおかげです。ありがとうございました。

大阪・布忍小学校6年  
西川 武志



兵庫・川西南中学校1年  
伊尻 悠希



歯医者さんのおかげで貴重な体験ができました。友達ができたり、ステージの上でマジックをしたり楽しかったです。



鹿児島・紫原小学校6年  
松下 怜奈

たくさんの友達ができとてもうれしいです。できればまた参加したいです。

大阪・松原小学校6年  
佐藤 広志



このイベントを通してたくさんの人と友達になり、色々な話がたくさんできました。本当にありがとうございました。



北海道・伏見中学校1年  
曾ヶ端 志帆

# 「夢みる子ども基金学校」

日本側責任者 ラフマン・モクレスール

## 高校開校式

8月14日(月)9時半。子ども基金学校の歴史に新たなチャプターが加わりました。大勢の地域住民と児童生徒・保護者や学校関係者の見守る中、高校の開校式が行われました。この喜びを味わうことができたのは言うまでもなく、子ども基金関係者の厚い支援と心遣いのおかげです。心から感謝しています。



今年も「バングラデシユと手をつなぐ会」の7人のメンバーは現地訪問に行ってきました。高校開校式は私たちの訪問日程と新学期に合わせ行われました。学校関係者たちは、子ども基金の代表が開校式に参加することを強く望んでいました。実現できなくて残念に思っていました。

小、中学校の校舎から約100メートル南に高校の新社舎があります。朝から入学者やその保護者、在学者や卒業生、地域住民、他の学校関係者、行政や教育委員会の関係者、シヨクタニの運営委員や教職員が集まり、開校式を待ち望んでいました。

開校式は二部に分かれており、第一部は、手をつなぐ会代表の二ノ坂さん、シヨクタニの現会長と前会長によってプレック・オブニング、引き続きそれぞれのお祝いの言葉、最後にこの学校の将来や子どもたちの安全を願って祈りを捧げました。第二部は、子どもたちによる合唱、朗読、歌や踊りなどで会場が賑わいました。子どもたちの顔から、明るい将来の光と何事にもチャレンジする精神がはつきりと見えました。

## これからの課題

2000年1月に小学校、2003年1月に中学校、そして2006年8月に高校開設。3年ごとに新たな段階へ突入。喜びと同時に不安も多かったです。スピードが速すぎるのではないかと、その声もありますが、このスピードを落とすとうとう10年後この国はどこに行っているだろう。今も、国づくりに必要な人材が非常に不足しています。そのために私たちは高速で走らなければなりません。

高校の建物は3つの教室だけ。生徒は科ごとに分かれ、別々の教室で授業が行われます。第9学年のときに生徒の進路が決まり、文系、理系、商学系や農学系などに分かれます。子ども基金学校には現在のところ、文理商3つの科があります。来年8月に今の高校一年生は二年生になり、また一年生が入学してきます。ということは、そのときまでに少なくとも、3つの教室、職員室、図書室や理科実験室を建てなければなりません。そのほか、トイレもまだできていません。

もう一つの大きな問題は質の良い教職員の確保です。子ども基金学校は私帯が増え、その後は拡大傾向にあります。農民の姿勢にも熱心さがうかがわれるようになり、関係者は成功への手ごたえを感じています。特記すべきは今年この村で250kgのコーヒ豆が収穫され、日本の基準に選別された後、福岡に輸出されるという朗報です。そのコーヒを賞味できるのが楽しみです。援助ではなく自ら稼いだ現金を手にする村人の表情が目に見えます。



## 今までの成果

この6年間で基金学校の子どもたちは様々なことにチャレンジし、着実に成果を上げています。昨年は、テレビの弁論大会グループ部門で4人の生徒が全国優勝、小学校5年生を対象とした優等生選抜試験で25名(カン二部で1300人受験し72名が優等生)、8年生試験で8名(同郡内700名受験29名優等生)の生徒が優等生として選ばれました。地域で大変高い評価を受けています。

大きな夢を胸に抱いて遠くから学校に通っている子どもたち、そしてその夢の実現に当たっているエネルギーに満ちた若い教員陣の希望に応えるためにこれからも頑張っていきたいと思っています。基金関係の皆さん、これまでと同様に、ご支援ご協力をよろしくお願い致します。

# ニルマルポカリ村 大きき発展

NPO法人福岡・

ネパール児童教育振興会

理事長 篠原 光彦

2006年4月、ネパールではデモクラシーIIが起り、王政から議会制民主主義に戻りました。政治がスムーズに執行されるようになるには、まだまだ時間が掛かるでしょうが、自らの生活を切り開ける環境になったものと

考えています。

児童教育支援から始まったニルマルポカリ村との縁は、あと2年の経済支援を以って一応のけじめをつけることが決定しています。その後学校は非常に困難な運営を余儀なくされます。

その為にJICAの協力を得ながらコーヒープロジェクトを展開しておりますが、ようやくコーヒー開発事業も活気づいて参りました。村内で苗木を作り苗木の調達に心がけ、今年には2000本を植樹致しました。初めは25世帯で取り組んだのですが、現在375世帯

帯が増え、その後は拡大傾向にあります。農民の姿勢にも熱心さがうかがわれるようになり、関係者は成功への手ごたえを感じています。特記すべきは今年この村で250kgのコーヒ豆が収穫され、日本の基準に選別された後、福岡に輸出されるという朗報です。そのコーヒを賞味できるのが楽しみです。援助ではなく自ら稼いだ現金を手にする村人の表情が目に見えます。

これは継続的な支援による結果であり、夢みる子ども基金からの協力の賜物であると感謝申し上げます。

## ネパール人主体の地域保健開発事業へと変容

ネパール歯科医療協会の

理事長 中村 修一

ネパール歯科医療協会は、1989年からネパールにおいて国際保健医療協力を展開しています。主なる活動は、歯科医療、現地の疾病構造や住民の疾病観などを明らかにするための各種調査(歯科疾患実態調査、栄養調査、口腔機能調査、口腔健康行動調査)を実施した。予防歯科(テチョー村診療室で外来患者を対象)、巡回歯科保健、学校保健(ブラッシング指導、フッ素洗口、栄養指導などの健康教育)、口腔保健専門家の養成、シュガーコントロール運動、トイレ建設、母子保健、地域歯科保健開発など多くのプロジェクトを実施しました。

これまで17年間のネパールでの活動は3つの変容をとげました。まず、活動内容は診療中心のメディカルケアから保健中心のヘルスケアに移りました。次に活動の主体は、日本人が直接的に実施す

る依存型から、ネパール人専門家による自立型活動に変容しました。ネパール人口腔保健専門家は本会が1994年からはじめた事業で現在までに150人の口腔保健専門家の養成を行っています。最後に活動の対象ですが、当初は個人を対象に診療や健康教育を行っていましたが、次に学校やマザーボランティアグループなど集団を対象に展開しました。現在はネパール人が主体となって新しい村での地域歯科保健開発事業へと変容しています。

地域歯科保健開発は具体的にはテチョー村とダバケル村の口腔保健専門家により隣村のスナコシ村とチャバガオン村でヘルスケアを展開しています。今年は12月23日から1月4日まで25人の隊員がネパールに派遣されます。

平成18年度、夢みる子ども基金から頂く援助金を学校歯科保健や母子保健など子どもたちを対象としたプロジェクトに有効に使用させて頂く予定です。



# これまでの夢のイベント

## H 7. 7 / 27~29 第1回「阿蘇子ども出会いの里」

熊本県・阿蘇で開催。阪神大震災で両親を亡くした子どもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。子ども会議の子どもたちや地元の子どもたちと大自然に触れ、交流を深めた。

## H 8. 7 / 25~27 第2回「阿蘇子どもみどり村」

熊本県・阿蘇で開催。子ども会議の子どもたち、筋ジストロフィーの少年たち、阿蘇の子どもたち、関係者ら総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。

## H 9. 7 / 21~22 第3回「世界の子どもと手をつなごう」

福岡市・大手門会館で開催。バングラデシュのカラムディ村から先生と教師3人を招き、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みる子ども基金学校」の建設資金を贈呈した。

## H 10. 7 / 24~25 第4回「夢の放送局」

福岡市・キャナルシティ博多のサンプラザで開局。子どもたちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、市内中心部をラブウォークし、バングラデシュ「夢みる子ども基金学校」の教材費のために募金を呼びかけた。

## H 11. 8 / 8~9 第5回「ケーキがたなく友情の輪」

熊本県・南関町で開催。第1回のイベントに参加した子どもたちや、当時のホームステイ先の方々なども一緒に大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。

## H 12. 8 / 6 第6回「アフリカの大地に糧付け 子どもたちの願い」

福岡県・宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフを通じて現地に送った。その後、竹馬、竹とんぼも作り、子ども全員で遊んだ。翌日、児童養護施設に贈呈した。

## H 13 / 8. 5 第7回「バリアフリーの社会を作ろう」

福岡市・TNC会館で「こどもシンポジウム」を開催。バリアフリーについての子どもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、福岡盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。

## H 14 / 8. 4 第8回「世界の子どもたちと交流」

福岡市・ベイサイドプレイスで開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をし、食の交流で一般市民から頂いた食事チケットの代金を九州大学留学生センターに寄付した。

## H 15 / 8. 3 第9回「日本の心を イラクの子どもたちへ」

福岡市・アクロス福岡で開催。日本古来の遊具（竹馬、竹とんぼ、こま、折り紙、お手玉）、パッチワーク、教材費をイラクの子どもたちへ贈った。

## H 16 / 8. 1 第10回「子どもたちが結ぶ10年の夢」

福岡市・アクロス福岡で開催。10回目の記念イベントとして第10回の「子ども会議」の子どもたちに、1回~9回のイベントに参加した子どもたちも加わり、総勢52名の子どもたちが参加。全員で幅12.6mの巨大な張り絵を製作した。また、福岡盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を寄贈した。

## H 17 / 7. 31 第11回「キャンペーンのある里で新潟・山古志、福岡・玄界島の震災地の友と交流」

熊本県阿蘇・高森町で開催。子ども会議の子ども15人、新潟・山古志の子どもたち25人、福岡・玄界島の子どもたち30人、それに地元の子どもたちも加わり総勢123人の子どもたちが参加。ホームステイ、キャンプファイヤーなどで交流を深めた。また、参加できなかった山古志と玄界島の子どもたちに、木工品を手作りし贈った。

## H 18 / 7. 30 第12回「いつか笑いも/を言う~人生は笑顔から~」

福岡市・電気ホールで開催。「笑い」をテーマにした絵本の読み聞かせやマジックショーなどを行った。また、作文の最優秀賞に選ばれた江田君の姉・果瑠奈さんがドイツで心臓移植手術を受けるための募金の応援をし、基金からも寄付金を贈った。

### こどもたちの夢が かなうまで...

#### 1. 作文・イラストの募集

毎年、「わたしのかなえたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学4年生~中学2年生まで

#### 2. 審査

「夢みる子ども基金」理事会・実行委員会にて作文・イラストを審査し入賞者を決定

#### 3. 子ども会議

春休みに入賞者を招待し福岡市内で「子ども会議」を開催。夏休みに行う「夢のイベント」を決定

#### 4. 夢のイベント

夏休みに「子ども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催

## 協力歯科医院内訳

(47都道府県)

県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数	県名	医院数
福岡	440	宮崎	42	愛知	13	京都	4
東京	206	千葉	35	宮城	13	滋賀	4
大分	95	大阪	33	岩手	13	島根	4
鹿児島	77	福島	29	三重	13	徳島	4
熊本	69	沖縄	22	栃木	11	福井	4
山口	66	広島	20	群馬	11	石川	3
神奈川	65	茨城	18	愛媛	10	高知	3
長崎	60	香川	17	山形	9	和歌山	3
兵庫	54	岡山	16	岐阜	9	鳥取	2
北海道	52	新潟	16	長野	7	秋田	1
佐賀	50	静岡	15	奈良	7	富山	1
埼玉	48	青森	14	山梨	5		

平成18年10月3日現在 合計1713件

夢みるこども基金の平成18年度定期理事会が5月24日、福岡市中央区大名の福岡県歯科医師会館で開催された。平成17年度の決算、平成18年度予算、事業計画の他、規約改正、常任理事会の新設などの会議案が満場一致で承認された。

理事会は秋山治夫理事長代行(福岡県歯科医師会会長)が議長となり開会した。秋山理事長代行は「基金も12年目に入り社会的にも評価されている。全国のことだから寄せられる『夢』の作文・イラストの応募も2000点を超え、全国の小、中学生がこのキャンペーンを楽しみにしている。基金はこれまで1件のトラブルもなく順調に活動して来たが、一昨年11月に一部の歯科医師グループから『新潟中越地震の被災者に基金の全財産を抛出せよ』という思いもしない要求があり、これが理事会で却下されると、今度は『基金の運営・経理に疑惑がある』と騒ぎ出し、1年半にわたり、様々な妨害を続けている。この問題は理事会として対応することになっていますので、今後どのような対応をするかも皆さんにお諮りしたいと思えます」と挨拶した。

議事は人事案件から始まり、新理事に中島喜盛(㈱日本航空インターナショナル執行役員九州地区担当福岡支店長)、藤芳素生(日本河川協会専務理事・元国土交通省近畿地方整備局長)、堀部政男(中央大学法科大学院教授・一橋大学名誉教授)の3氏を、任期満了の5人の理事の再任と2理事の退任、新実行委員6氏の委嘱、3氏の再任、5氏の退任を提案し、承認された。

続いて古市悟事務局長から平成17年度の活動報告、補綴金属回収報告があった。それによると、協力歯科医院は1718件で、補綴金属の回収は374件、総重量は142,121gでいずれも前年を下回った。基金に対する一部歯科医師のグループが「基金には不正、疑惑がある」「金属冠は出さない方がいい」などと妨害行為をしていることが響いている。しかし、基金には「彼らの言動は常識的に見てもおかしい」「不純なものを感じる」「基金を信じているので、これまで通りこどもの夢の実現という理念を守って頑張る」など多数の励まし電話、メール、葉書が寄せられている。

平成17年度の会計について、吉田雅俊顧問税理士が、第12期収支報告書、貸借対照表に基づいて説明。木村友則監事の「適正である」との監査報告があり承認された。第13期予算書(18年度)も原案通り承認された。

規約改正では、現在、理事会は5月に定期理事会を開催している他、必要に応じて臨時理事会を開くようになってきているが、理事は多忙でしかも遠方の在住者も多いため、臨時理事会はなかなか招集できない。このため理事若干名で「常任理事会」を構成し日常的業務を処理するという規約改正案が提案され、承認された。これに伴い、6人の理事が常任理事に就任する人事案も承認された。

常任理事会規程では、常任理事会は4名以上7人以内で構成。理事会から委任を受けた事項や緊急に対応が必要な事項などについて処理する。補綴金属の売却の決定などについても判断する。

新年度事業計画では、各団体への寄付について協議が行われ、今年度も継続的な支援を続けているバングラデシュの「夢みるこども基金学校」とネパール歯科医療協力会に各30万円、NPO法人福岡・ネパール児童教育振興会に10万円を贈ることが決まった。

特に、バングラデシュの「夢みるこども基金学校」は平成11年に小学校

からスタート、その後中学校を開校、今夏には高校も開設して、現在574人の児童、生徒が在籍し、バングラデシュでも注目される学校になっている。基金でも海外活動のシンボルとして位置づけ、これまで総額約864万円の寄付をしており、「この学校から新しいバングラデシュの国づくりの人材が輩出される」と期待している。

続いて古市事務局長から7月29、30の両日、福岡市内で開く「笑い」をテーマにした夏のイベントについて説明があった。また、今後のキャンペーンの展開については、様々な機会をとらえて歯科医師の方々にキャンペーンへの参加と協力を呼びかけて「協力歯科医院」を増やして行きたいとの話があった。

金子力実行委員(アグネス・チャン理事の代理)から、このキャンペーンをさらに実のあるものにするために、こどもたちがどんな意識を持ちどんな環境の中でどんな夢や希望を持っているかなどをつかむために、大がかりな「こどもの夢」アンケートを行い、今後のキャンペーンに反映させることの提案があった。

横島庄治理事からは、学校が荒れているので、祖父母や若者などが参加して、こどもたちの遊びなどを指導する「新しい社会・教育の場」を作りたいことを夢みるこどもキャンペーンに組み込んだらどうだろうか。土曜日に学校で「ロータリー・スクール」「ライオンズ・スクール」「JCSスクール」などを開くことも一案だと話し、賛同する理事もいた。

また、この日の理事会では、1年6か月にわたり基金に対して妨害行為を続けている一部歯科医師の問題についても長時間にわたり話し合いがあった。

古市事務局長が、騒ぎの発端となった元日本顎咬合学会理事長の河原英雄氏らからの平成16年11月26日の「基金の全財産を新潟地震の義援金として抛出せよ」との要求からこの1年6か月間に対応した、様々な妨害行為の数を説明したあと、基金理事会としてどう対応していくかについて協議が行われた。

このグループから出された質問書については、基金は十分誠意を持って回答しているが、「全財産を抛出せよ」の要求が理事会で却下されると、次は「基金の運営、経理に疑惑がある」、そして河原氏らとも連絡を取り合っ進めた、厚生省(当時)や日本歯科衛生士会、日本歯科技工士会の後援承諾についても「後援を取っていないのにウソをついてキャンペーンを進めている」などと次々と攻撃目標を変えて妨害はエスカレートするばかり。

理事の間からは「彼らは根拠もないことをもとに推察し、誹謗中傷している」「騒ぐことによって基金のイメージダウンを図るのが狙い」「騒ぎはエンドレスで、話し合いや説明で納得することは無理」「無視することが一番いい」「法的な措置を取るべきだ」などの意見が相次いだ。

結局、協力歯科医院に対しては彼らの不当な言いつや妨害行為を明らかにした上で、基金は規約に則って正しく運営されていることを説明し、これまで以上の協力をお願いすることが第一。しかし、彼らがこれ以上のいやがらせや妨害を続けた場合は、厳しい対応での臨戦体制を取らざるを得ない、との基本的スタンスを確認した。



### 定期理事会議事

- ① 役員改選
- ② 実行委員委嘱
- ③ 報告
  - ▽ 平成17年度活動報告
  - ▽ 平成17年度補綴金属回収報告
- ④ 規約改正・人事
- ⑤ 平成17年度会計決算
- ⑥ 平成17年度監査報告
- ⑦ 平成18年度予算案
- ⑧ 新年度事業計画
- ⑨ 各種団体への寄付・助成金
- ⑩ 今後の展開
- ⑪ その他

### 人事

#### 【常任理事】

秋山 治夫 (福岡県歯科医師会会長)  
 中島 和男 (西南学院大学文学部国際文化学科ドイツ語教授)  
 中村 直 (福岡県歯科医師会副会長)  
 古市 悟 (元スポンサー報知西部本社取締役編集部長)  
 古川 洋 (㈱福岡放送常務取締役)  
 堀部 政男 (中央大学法科大学院教授、一橋大学名誉教授)

#### 【理事・新任】

中島 喜盛 (㈱日本航空インターナショナル執行役員九州地区担当福岡支店長)  
 藤芳 素生 (日本河川協会専務理事、元国土交通省近畿地方整備局長)

#### 【同・再任】

田中 儀夫 (元読売新聞西部本社福岡総局長)  
 永田 正典 (福岡県歯科医師会専務理事)  
 中村 直 (前記)  
 古川 洋 (前記)  
 横島 庄司 (NPO法人環境システム研究所理事長、元NHK解説委員)

#### 【実行委員・新任】

伊藤 実喜 (中洲クリニック院長)  
 川合 次郎 (㈱福岡放送報道部長)  
 川島 万里 (㈱日本航空インターナショナル総務部アシスタントマネージャー)  
 後藤 直弘 (元読売新聞西部本社写真部課長)  
 丸山 昭浩 (日本通運福岡支店ペリカンアロー課長)  
 山岡 昭次 (㈱ジーシー九州営業所所長)

#### 【同・再任】

金子 力 (T&A取締役)  
 川越 文雄 (㈱福岡放送報道制作局長)  
 藤井 隆行 (㈱福岡放送報道制作局長)

#### 【退任理事】

萱場 成郎 (㈱JALセールス執行役員九州支社長)  
 富澤 実郎 (㈱ジーシー・デンタルインフォメーションセンター所長)  
 ※井堂孝純氏は3月未だ日本歯科医師会会長を辞任したのに伴い、規約14条に基づき理事を辞任

#### 【退任実行委員】

田中 儀夫 (前記)  
 藤野 博史 (読売新聞宮崎支局長)  
 森山 清孝 (日本通運福岡支店ペリカンアロー課長)  
 山川 正幸 (㈱JALセールス九州営業所所長)  
 山名三枝子 (㈱JALセールス九州支店広報宣伝グループ長)  
 ※日本歯科医師会の井堂孝純氏の後任会長に就任した大久保満男氏は、基金の定期理事会が開かれた翌日の平成18年5月25日付で、基金の理事・理事長就任とキャンペーンへの協力を「留保」するとしていた。そして、平成18年9月29日付で理事・理事長就任と協力について辞退する旨の文書が基金事務局に届いた。

# 1年10か月にわたり妨害行為 中心人物3人に法的措置

## 臨時理事会

夢みる子ども基金は「基金に疑惑、不正がある」などとして1年10か月にわたり、妨害を続けている一部の歯科医師のグループの問題について9月20日の締め切りで書面上による臨時理事会を開催しました。その結果、「このまま静観、放置しておく」と一方的な情報流されて、基金自体の信用が損われ、協力歯科医院に対しても迷惑がかかる」として、中心人物と見られる3人を相手取り、法的措置を取ることを決めました。

この発端は、平成16年11月に日本顎咬合学会の元理事長だった河原英雄氏から「日本歯科医師会は旧橋本派への1億円献金事件で大きなダメージを受けている。歯科医療界を救うために基金の全財産（基金だよりに掲載されている9000万円）を新潟地震の被災者に拠出して欲しい。これに歯科関係出版社の社長が1000万円を寄付するので献金問題の1億円を消すことになる。基金も高額の寄付をすることによって有名になり、億単位の金（補綴金属）が集まるようになる」との要望が出されました。同年12月27日の基金の臨時理事会でこの要望について審議されたが、「要望内容が問題が多く、理事会で諮るような議題ではない」「日本歯科医師会の献金問題の暗いイメージを消すために基金の全財産を出せ」というのは発想が貧困だ。またも取り合えず気がしない」「基金は政治的、社会的な利害で動いてはならない」との意見が出て、要望は認められませんでした。

基金独自の判断として、新潟地震の被災者に対しては、過去の寄付などを参考に300万円を寄付しました。自分たちの要望が理事会で却下されたこと、このグループは「基金の運営、経理などに疑惑、不正がある」と言い出した。日本歯科医師会や理事長代行（福岡県歯科医師会会長）らに面会して要望書などを出して「基金は大きな問題を抱えており、大きな社会問題になる」として基金の全ての経理書類や協力歯科医院のリストなどの開示を要求。その一方で不特定多数の人たちに呼び掛けて「夢みる子ども基金を考える会」「夢みる子ども基金の経理に関する説明会」「夢みる子ども基金のあり方について考える会」などを開いて「基金には疑惑、不正がある」と騒ぎ立てました。

基金は彼らの質問や要望について、平成17年12月22日の回答で疑問点について詳細に説明した回答書（全23頁）を出すなど、必要に応じて回答して来たにも関わらず納得せず「基金は情報開示をしない」と騒ぎをエスカレートさせるばかり。

余りにもひどいため、基金は平成17年7月4日付でこの3人らに対し、「事実と異なる事実を摘示して基金ならびに理事各位の名譽を毀損したり、基金の業務を妨げることには法に触れ処罰の対象となりあるいは損害賠償を命じられることもある」との顧問弁護士名での警告書を出しました。ところが、このグループはその後同じような言動を続け、補綴金属の回収強化月間前には、協力歯科医院に対して「基金に疑惑があるので、金属冠は出さない方がいい」となどと働きかけたり、「自分たちが金属冠回収のシミュレーションをしたら基金発表の金額と億単位の差があり、疑惑の状況証拠だ」となどとして、一部の都道府県歯科医師会長や歯科医院に対して基金追及の賛同者になるように働きかけた。

また、最近基金の後援団体になっている厚労省（基金設立時は厚生省）、日本歯科技工士会、日本歯科歯工士会、都道府県歯科医師会などの「後援承諾を取らずにウソをついてキャンペーンを進めている（事実関係は別掲の回答書に明記）」などと攻撃目標を変えて来ています。

彼ら「自分たちが基金つぶしや乗っ取り、嫌がらせをしたような流言もありますが、基金の健全で一層の発展を願う気持ちからです」などと言っていますが、グループの一連の言動はその言葉とは裏腹に、信じられないことを繰り返しており、その意図も明らかになりつつあります。基金としてはボランティア団体として騒ぎに巻き込まれることは好ましいことではなく、協力歯科医院にも心配や迷惑を掛けることになるとして、これまで1回、協力歯科医院に対して騒ぎの事実関係を説明した文書を配布しました。

しかし、彼らは一方的な情報を流し続けるために協力歯科医院の一部からも「毅然とした態度を取って欲しい」という意見も寄せられています。

理事の間では「根拠のないことを並べ立てて妨害を続けており看過できない」「回答しても同じことの繰り返しで説明や話し合いで解決するのは無理」「協力歯科医院に対しても心配、迷惑を掛けることになる」「基金が行き詰まると、毎年の作文・絵のコンクールやイベントを楽しみにしている全国の子どもたちを裏切ることになる」として臨時理事会では、法的な措置を取ることを圧倒的多数で議決しました。

基金には、運営、経理などが正常に行われていることを証明する資料も揃っており、毎年度、顧問税理士、顧問弁護士、監事のチェックを受けた後、理事会の承認も得ています。

「第三者機関による再監査を行い、疑問を払拭する」とこととされていますが、正常に機能している理事会がすでに承認したことを第三者が再監査を行うということは理事会の存在を否定することであり、承知できません。

次に、「当基金が厚労省や日本歯科技工士会、日本歯科歯工士会の3団体から『後援』を受けたことはない。河原氏らが当該団体に問い合わせたところ『後援した事実はない、基金は後援を偽ってキャンペーンを展開している』との指摘がありました。

しかし、まず、厚生省（当時）については夢みる子ども基金が設立される1年4か月前の平成5年11月26日付の厚生省「厚生事務次官古川貞二郎」名の公文書で「夢みる子ども基金キャンペーン—使い古しの金歯・銀歯リサイクル」運動に対する後援の承諾をしています。

厚生省とは当時の局長、課長、課長補佐らと金属冠回収のボトルをどうするか、なども含めて何度もお会いして指導を受け、単なるイベントだけでなくキャンペーン自体の後援をいただいたもので、後援更新についての条件も全くありません。「事業が継続する限り後援は有効」と理解しています。

また、日本歯科技工士会と日本歯科歯工士会の後援も、基金が設立される前々年に後援をいただいていたのは事実です。同時に福岡県歯科技工士会と福岡県歯科衛生士会の後援も得ています。

そして、2つ会の代表は基金の設立準備会の段階から出席され、その後の春の「子ども会議」、夏のイベントにもご出席をいただきました。

これらの後援は、設立時の協力者である河原英雄、増田純一両氏も読売新聞社会部員と一緒に連絡を取り合っていたその準備を進めており、河原、増田氏も設立準備会に技工士会、衛生士会の代表と出席した記録も残っています。

特に技工士会と衛生士会については、河原氏から「後援を得ていた方がうまくいく」とアドバイスを受けたことによるものです。

厚労省も含め、いまだ「後援を取っていない」といわれるのは事実と反しております。

なお、当職から河原氏らへの回答書の中で基金としては「建設的な質問・意見で、回答が必要と認めた質問については応じる」としています。今後も、理事会の基本的スタンスですらご理解下さい。

敬 具

## 基金の定期理事会終了後に河原英雄氏らの 代理人弁護士に対し、基金が送付した回答書の全文

### ご回答

平成18年6月5日  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町1-5-13  
平河町UTビル6階  
堀内法律事務所  
受取人 河原英雄・増田純一・河津寛氏の代理人弁護士 堀内 節郎先生

差出人  
〒810-0042  
福岡県福岡市中央区赤坂1-12-15  
読売福岡ビル8階  
森法律事務所  
夢みる子ども基金代理人 森 竹彦  
(夢みる子ども基金顧問弁護士)

拝啓、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
夢みる子ども基金は5月24日に福岡県歯科医師会館で平成18年度の定期理事会を開きました。河原英雄、増田純一、河津寛氏の代理人である貴代理人弁護士から当職宛に出されている、夢みる子ども基金に対する質問書、そして当職に対する面接など一連の件につき、理事会の議題として協議が行われました。  
その結果、この件についてはすでに当基金の顧問税理士から詳細な回答をさせていただいており、これ以上の説明、回答は同じことの繰り返しになり、意味がないと判断されました。  
重複することになりますが、基金の経理、運営については理事会の構成員に顧問税理士も加わり、規約に則って厳正に処理され、別の税理士による監査も受けたうえで理事会において承認されています。また、当職にも面会して解決方法を提示したいとの申し入れであり、

# 夢みる子どもキャンペーンの流れ



## いつでも受け付けています

協力歯科医院のお申込みは、随時「基金事務局」で受け付けています。入会頂くと、直ちに日通のペリカン便で、ポスター、木箱、内ボトル2個をお送りします。金属冠はこの内ボトルに入れて頂き、日通のペリカン便でボトルのみ事務局へお送り下さい。

## 日通ペリカン便はいつでも出動OK

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に10月と11月を強化月間としています。少量しかたまっていなくても構いませんので、日通ペリカン便フリーダイヤル(0120-41-0202)※回収箱の裏に記載)へ電話し、日通ペリカン便の方に「着払い」と伝えて渡して下さい。無料で運んでもらえます。直接、基金事務局(092-751-0021)へ電話されても結構です。

10月 11月は回収月間です  
日通フリーダイヤル(0120-41-0202)

## 日通の皆さんありがとうございます

このキャンペーンを支えて頂いているのは、全国の歯科医院などから寄せられる金属冠ですが、前述のように輸送を担当される日本通運本社、各支店のご協力も大きな力になっています。基金発足当時から回収などの輸送は全額、日本通運本社が負担、全社員の皆さんにボランティアに参加頂いています。

業者に委託して回収していません

一部の金属回収業者が、「夢みる子ども基金から委託された」「夢みる子ども基金と提携している」「など虚偽の話をし、歯科医院などから金属冠を集めています。当基金は、提供していただく金属冠を正確クリアにするために業者に委託しての回収は一切行っておりません。

また、当基金は設立当初から『国税局』に相談、指導を受けながらキャンペーンを進めていますので、課税関係で問題が生じた時も事務局へご連絡下さい。金属冠を送って頂いた各歯科医院等については、受領年月日・重量などを細かく記録していますので、対応致します。金属冠を受け取ったら「受領証」と「感謝状」をお送りしています。

夢みる子ども基金にご協力頂いている協力歯科医院、歯科医療機関、それに各種団体など多数の皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。皆様のお力添えのおかげで、夢みる子どもキャンペーンも12年目を迎えました。全国の子どもたちは、基金が毎年募集する「わたしのかなえたい夢」の作文・イラストの応募を楽しみにしており、寄せられた作品は2000点を突破し、このキャンペーンが着実に根付いていることを裏付けています。春の「子ども会議」と夏のイベントに参加する子どもたちの澄んだ瞳と笑顔はとても印象的で感動を与えてくれます。そして、子どもたちは基金を支えて下さっている歯科医の先生方に感謝しています。すでに説明しましたように、これまで基金設立から10年余1件のトラブルもなく順調に成長して来た夢みる子ども基金でしたが、一部歯科医のグループが突然いやがらせ妨害を始めたことには本当に驚き、信じられないことでした。それも憶測や自分たちのシミュレーションなどに基づく言いがかりで、こんな不条理なことが許されるのか、そんなことが許されるのかといった怒りを禁じ得ません。

私もトラブルや騒ぎになることは好ましくないと考えて、余り反論もしなかつたために、このグループの一方的な情報を受けて「疑惑を明らかにせよ」「彼等から金属冠は出さない方がいいと言われた」などという会員の方もいらつしやいました。

しかし、その反面「彼らが言っていることはおかしい」「社会常識的にも通用することはない」「子どもたちの夢の実現という基金の理念を守り頑張つて欲しい」などの励ましの手紙、電話、メールも頂き、私たちも励まされました。

これからも、小さな胸に様々な夢を抱いて成長して行く子どもたちの応援団として、私たちはこれまで通り愚直にこのキャンペーンに取り組みますので、皆様の一層のご理解、ご協力をお願い致します。ご支援頂いている協力歯科医院の方々と一緒に歩み続ける心算です。お気づきになったことや意見、アドバイスなどがありましたら、いつでもお寄せ下さい。お待ちしております。

常任理事・事務局長  
古市 悟

編集 後記